

同一農家で続発した若齢で地方病性を疑う牛伝染性リンパ腫：岡山県津山家保 西本光佑

黒毛和種肉用繁殖牛 19 頭を飼養する農家において令和 4 年 6 月に 3 ヶ月齢、令和 5 年 10 月に 9 ヶ月齢の黒毛和種子牛の病性鑑定を実施。1 例目は全身リンパ節の腫大及び固有組織の消失、リンパ球増殖を確認。リンパ節で牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）遺伝子を検出。しかし白血球の増加や各種臓器へのリンパ球の浸潤は認められず。2 例目は白血球の顕著な増加、各種臓器へのリンパ球浸潤及び BLV 遺伝子を検出。リンパ節腫大は認められず。症状はそれぞれ異なるものの、いずれも地方病性牛伝染性リンパ腫を疑う結果となった。同一農場で 2 年連続発生したことから、農場の BLV 浸潤状況把握及び子牛発症続発防止のため繁殖牛の全頭検査を実施。19 頭中 8 頭（42.1%）の BLV 抗体保有を確認。まん延防止対策として抗体陽性牛と陰性牛をそれぞれ別の列に分離するよう指導。指導の後、子牛での新たな発生事例の報告はない。